

船橋市管工事業協組主催

技術講習会に280人

排水設備指定工事店が

船橋市管工事業協同組合

(古橋久治理事長)の主催

係長が出席した。

12月に組合名改称

「船橋市排水設備指定工事店技術講習会」が先月15日、船橋市勤労市民センターで開かれ、組合員ら約280人が聴講。来賓として、船橋市建設局下水道部の長岡秀樹部長をはじめ、今井正・参事兼下水道総務課長、小泉雅則・下水道総務課副主幹兼排水設備

代表して古橋理事長は、同組合が昨年12月11日をもって、船橋市上下水道管工事協同組合から名称を改めたことを報告。「地域社会の発展と成長に貢献し、これからは安全安心な組合として、みなさんと一緒に歩ん

でいきたい」との方針を示し、協力を呼びかけた。また、同組合が船橋市排水設備指定工事店の技術向上を目的に、技術講習会を2年に1度開催していることについては「会を重ねることによって大きな成果が上がっている」と弁。「本日の講習会がみなさんのスキルアップに繋がり、有意義なものになることを期待している」と述べ、あいさつとした。

技術力の向上が市民生活向上に直結

引き続き、来賓を代表して長岡部長は、同市の下水道整備について「昨年度末の普及率が79%であり、本年度末には80%を超える見通しである。全国平均が77%、県平均は71・4%のこ

とから、近隣市に比べて早いスピードだと言える」と弁。

昨今の下水道事業を取り巻く環境については「国では今後10年間で、下水道整備を概成する方針を示している。当然ながら、整備中心から維持管理中心の下水道事業へと大きく舵を切ることになる」との見通しを述べたうえで、「本市の下水道は昨年で整備開始から50年が経った。50年が一つの目安となることから、維持管理と併せて整備を進める考えである」との方針を示した。

雨水浸透枡設置促進への協力も

このうち、宅内排水設備工事の件数が年間50000件程度にのぼることについては「当分はこの数字で推移するものと思われる。指定工事店のみなさんの技術力の向上が、市民生活の向上にも直結することから、当講習会の開催の意義は大変大きいと思う」と弁。さ

らに同市では、昨今の台風やゲリラ豪雨による浸水被害の発生を緩和するため、浸透適地への雨水浸透枡の設置補助を行っていることに言及したうえで「排水設備の専門家として、雨水浸透枡の設置促進に協力頂ければ心強い」と要請し、祝辞に代えた。

この日の講義の題目と講師は次の通り。

▽宅地内排水設備工事の最近の話題 〈講師〉藤田清氏(船橋市建設局下水道部下水道総務課主任技師)

▽消費生活センターに寄せられる下水道工事の相談について 〈講師〉野々村寛子氏(船橋市経済部消費生活センター消費生活相談員)

▽雨水浸透枡等の補助制度について 〈講師〉平山智章氏(船橋市建設局下水道部下水道河川管理課副主幹兼財産管理係長)

▽排水設備の水理実験 〈講師〉中島照明(前澤化成工業(株)東京支店千葉営業所長)



あいさつする古橋理事長(上)と長岡・船橋市下水道部長

